

「ばあああっ!!」

世界の再生が行われて
しばらくした後：

女性型のブレイドが
消息を絶つという
事件を聞き：

ヒカリちゃんと
調査に来たので

謎の軟体生物に
攻撃を受け
ヒカリちゃんと
はぐれてしまいました

はな
はな

「はあああつ!!」

世界の再生が行われて
しばらくした後…

女性型のブレイドが
消息を絶つという
事件を聞き…

ヒカリちゃんと二人で
調査に来たのですが…

謎の軟体生物に
攻撃を受け
ヒカリちゃんと
はぐれてしまいました



「はあ……はあ……」

囚われた私は
何とか脱出を
図ろうとしたけど……
触手の拘束はとても強く……
脱出できそうも
ありませんでした

この生物の体内だと
力が使えない……

体もなんだかおかしい……
次第に熱く……なって来てる……

私を拘束してるこの触手……
まさかブレイドの力を
封じ込める何かを
持っているというの……？

それに……この触手……
さつきから……っ!!

「やっ……さつき……破いちゃ……!!」

エッチなことはかり
して……る……っ!!

「だめ……敏感に
なってるの……っ!!」

「こんな……
いやあ……っ!!」

「っ!!」

「っ!!」

「っ!!」

「っ!!」



そしてそれは
突如に始まりました

「な、何をやるつもり!?」

「まさか!」

先端に宝石を
付けた触手は…

私の大事な所を
押し開き…

「だめ!来ないで!」



…あっさり
私の純潔を奪って
いったのです

ゆるさない…

レックスに
捧げたかった純潔

そんな私の願いを
踏みじった触手は
最奥の子宮口に到達し…

こんな…触手なんか…

絶対に…

さらなる略奪を

「あんなに……」

!?

「あ……」

「え……?」

——始めたんです——

「あああああ……」

体内のエーテルが……

強制的に……
吸い取られ……て……っ!?

ため、何が……来ちゃっ!



その快楽は
私を生まれて初めての
絶頂を迎えさせるには
十分すぎる衝撃でした

女性型ブレイドの
子宮に宿る大量の
エーテル

コアと密接な関係にある
子宮のエーテルを奪われ

子宮に近いスーツは
エーテルを失い弾け跳び
私のコアは一瞬で破損
してしまいました





「だ…め、ドンドン吸われてい…くうッ!!」

吸われれば吸われるほど私は絶頂させられ

抵抗する力を奪われていく私…

吸われるたびに…来るこの快楽…

入らな…っ!!
「いやああああっ!!」

触手は固く閉ざされた子宮口を難なく突破し…

とても耐えきれない!!

さらに…

「だめ、そこはっ!!」

エーテルを奪う力はさらに強くなって来たのです

無防備な子宮の中を
犯しながら触手は最奥の
卵巣までも犯し：

「強制排卵」

全て

「あー！」「嘘…こんなの…」

子宮から無理やり
分離させられた卵子…

「排…卵…させら
れ…てる…」

エーテルの塊

「そんな…」

奪われる…

ブレイドとしての力も
女としての尊厳も…

「まさか…」

「おめえ…」

「それ…たけは…」



！！！！

ブレイドとしての力を
ほとんど奪われ……
大した力を
搾り取れなくなった頃

アソコは子宮口が
露出するほど
捲れてしまい……

砕けたコアは
5分の1ほどが
触手に吸収されて
しまいました

「は……は……」

胸はエーテルの
混じった母乳をだらしなく
吹き出すように開発され

——きつと助けに
来てくれる——

断続的に来る絶頂と
吸収に耐えていました

突如、アソコを蹂躪していた
触手が引き抜かれました

ズッ……

おぞましいほどの
快樂の衝撃

コアはさらに砕かれ

「ひっ……ぐうらうら……っ！！」

んんん……

ズッ……
ズッ……
ズッ……

「は……っは……っ」

本当の凌辱者が
姿を現したのです

無理やり
捻じ込まれてくる
いびつな生殖器

「あが…っ!!!」

私の腕くらいある
その生殖器は

アソコが裂けそうな
音を立てながら
押し入ってきて…

「だめ…っ
卵子…卵子はダメえっ!!!」

避妊出来ない…

子宮口を貫いて
子宮壁を激しく
打ち付けてきました

「エーテル…っ
残ってないからあつ!!!」

今子宮の中に出されたら
確実に「孕んでしまう」



助けて...っ!!

ツツツツツ

コッパッパッ

カッパッパッ

カッパッ

カッパッ

カッパッ

カッパッ

カッパッ

カッパッ

カッパッ

カッパッ

カッパッ

すでにエーテルを失った
私の子宮ではその侵入を
拒むことはできず…

化け物の滾った白濁液は
あっという間に
私の卵子たちを
取り囲んで来たのです

卵膜は成す術もなく
突き破られ

精子が卵核に
喰い付かれた瞬間—

最後のエーテルを
奪われていく
卵子たちと
無様に絶頂する私の—

完全な敗北を…
意味していました—



×キ

受精卵は私の子宮の
エーテルを餌に
次々と成長し

次々と産まれて
きたのです

何度も

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

何度も…

孕まされては産まされ…

私の子宮…

×キ

何度も

壊れ…ちや…う…

もう…

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

×キ

ゴキウ

ゴキウ

あれからどれくらい経ったのか…

私はかれこれ数十匹の怪物を出産し…

胸から絶えずエーテルを奪われながら細かい絶頂を繰り返していました…

コアクリスタルは損傷しても「扉」からエーテルを取り出す力は残っており…

簡単に消滅できない「天の聖杯」である私は…彼らにとって都合のいい「苗床」だったので

蠢く怪物を胎で感じながら…

私は大切な人達の名前をただ呟いていました…

「ヒル・カリちゃん…」

「レックス…」

ゴキウ

